

令和4年度

学校の教育目標

グローバルリーダー (Thinkglobally, act locally) の育成
~未来に向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成~

期末評価

Table with columns: 計画 (5月1日), 期末評価 (2月1日), 達成指標, 最終評価, 取組指標, 担当者, 中間評価, 期末評価, 取組指標の達成状況詳細, 次年度に向けた総括. Rows include categories like 知識・技能, 思考・判断・表現, 学びに向かう力・人間性等, 働き方改革の推進.

附属小学校「学校評価」の自己評価について

本校の学校評価は、大分県教育委員会が推奨している「学校評価の4点セット」を用いています。「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力・人間性」「働き方改革の推進」の4つの観点で【達成指標の】達成状況を中心に自己評価しています。別紙学校評価をご覧になりながら確認をお願いします。

1つ目の観点「知識・技能」における【達成指標】の評価は、S・S・AS・SAでした。

6年生を対象とした「全国学力調査」では、国語、算数ともに達成率120%以上でした。昨年度も算数、国語ともに達成率120%を超えており、組織的な授業改善の成果が継続して現れていると考えています。

5年生を対象とした「CRT検査（標準学力検査）」では、国語が119%でA評価、算数が123%でS評価でした。国語もS評価の120%にほぼ近い結果でしたので、5年生においても概ね満足できる結果でした。

同じく5年生を対象とした「新体力テスト」では、男子が110%のS評価、女子が105%のA評価でした。種目毎の結果を見ると、男子は8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ）の全てで全国平均値を超えています。女子は、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの3種目で平均値を下回っていました。特に、大分県全体の課題でもあるソフトボール投げが、本校は全国平均と比較すると1m以上差があり、投げる力の育成に向けた指導改善が必要であることが明らかになりました。

本校の「知識・技能」については、概ね目指すべき子どもの姿が達成できていると捉えますが、体力向上については課題がはっきりとしましたので、健康安全指導部を中心に、体力向上の取組を本年度以上に進めていきます。知識・技能についての授業改善の方向性は、大きく変更する必要は無いと考えていますので、引き続き、指導部門を統括する指導教諭を中心に組織的な取組を充実させていきます。

2つ目の観点「思考・判断・表現」における【達成指標】の評価は、S・S・ASでした。

6年生を対象とした「全国学力学習状況調査」では、国語、算数ともに達成率120%以上でした。昨年度も算数、国語ともに達成率は120%を超えており、組織的な授業改善の成果が現れていると考えています。

5年生を対象とした「CRT検査（標準学力検査）」では、「知識・技能」と同じく、国語が119%でA評価、算数が123%でS評価でした。国語においてもS評価である120%に近い結果を得ることができていますので、概ね満足できる結果が現れていると考えています。

本校の「思考力・判断力・表現力」についても、概ね目指すべき子どもの姿が達成できたと捉えています。また、「知識・技能」と比べて、より高い成果が現れていることから、強みとして、今後もしっかりと「思考力・判断力・表現力」を育成していきたいと考えています。そのためにも、生活科・総合的な学習の時間の授業のみならず、思考ツールの日常的な活用などの取組を一層充実させていきます。

3つ目の観点「学びに向かう力・人間性等」における【達成指標】の評価は、Aでした。

笑顔アンケートは、達成率110%でS評価と設定していますが、本年度も昨年度と同様に100%を少し上回る程度の結果となりました。学年間で差はありますが、学校全体で11月と2月を比べると自己他者肯定群の割合が97.5%から101%に上昇することができました。これは、11月の結果が出た際、指導教諭が全学年部に学級経営の充実に向けた指導助言を行い、その短期のPDCAサイクルが2月に結果に結びついたと考えます。今後も自己他者肯定群の割合を増やしていくための取組の継続が大切ですので、これまで以上に、安心・安全な学校生活の基盤となる3つの取組（あいさつ・掃除・履き物揃え）を中心に学級・学年・学校経営を充実させていきます。

本校の「学びに向かう力・人間性等」については、目指すべき児童の姿まで、達成できなかったと捉えています。児童の自己肯定感を高める生徒指導を充実させながら、全ての児童が安心・安全に学校生活を送ることができ、学びに向かう力・人間性等がしっかりと育まれていけるようにしていきます。

4つ目の観点「働き方改革の推進」における【達成指標】の評価は、Sでした。

9月末時点では、達成率93%でしたが、12月末で達成率が132%となりました。昨年度の達成率は12月末で120%でしたので、年次有給休暇取得率の視点から見ると本校の働き方改革は、昨年度と比べて前進できていると捉えています。

これまでの取組例を挙げると、2学期制への移行、4月の全学年5時間授業実施、教科担任制（交換授業）の実施、会議の精選などがあり、様々な改善を図ってきました。更に、本年度からは、学年通信を週1～2回から月1回発行への変更、児童アンケート調査のWEBフォーム化（アセス・笑顔アンケート）、通知表の前期所見欄廃止（後期のみ1回記載）などの改善を図りました。

本校の「働き方改革」については、概ね目指すべき教職員の姿が達成できていると捉えており、教職員が児童と向き合う時間を確保できる環境等の整備が有給休暇の積極的取得に結びついたと考えています。また、学年主任のタイムマネジメント及び有給休暇取得の声かけ、更なる業務改善に向けた経営陣を除いた全職員が参加する「拡大学年会」の開催などミドルアップダウンマネジメントの効果も大きいのではないかと考えています。附属学校として、地域のモデルとなるべく質の高い教育活動を実現していくためにも、聖域なき業務改善及び働き方改革を進め、教育改革と働き方改革の両立を一層推進していきます。

自己評価は以上となります。重点的な取組に係る具体的な【取組指標】やその【達成基準】については、令和4年度当初、設定に苦慮しました。今後もよりよい指標に改善していかなければならないと考えています。改善に向けた取組のひとつとして、本年度も年度末に主幹教諭を中心に指導教諭、研究主任、学年主任をメンバーとして学校評価策定部会を開催して、令和5年度版学校評価を策定させていただきます。

「もっといい学校づくり」に向けて、全教職員で学校評価の重要性と有効性を捉え、学校改善ツールとして、更に有効活用していきたいと考えています。そのためにも、学校評議員の皆様には、学校関係者評価（自己評価の結果について評価することを基本として行う評価）をお願いしたいと思っておりますので、忌憚の無いご意見・感想・助言等頂ければ幸いです。よろしく申し上げます。